

岡山県立興陽高等学校と連携しての研究活動の振り返り

私たちは2月25日（金）に岡山県立興陽高等学校を訪問し、興陽高校と連携して2年間かけて行ってきた農業ハウスコントロールシステムの研究結果についての報告を行いました。

私たちのプレゼンを興陽高校の先生方がとても熱心に聴いてくださり、研究に力を入れてきてよかったと強く思いました。これからの研究にますます希望をもって取り組んでいきたいと思える訪問でした。



2年間の研究活動では、サーバの準備や試験用のミニハウスの制作など多くのことをやらなければならなかったため、私たちは事前調査を入念に行い、開発計画を立てて研究活動を始めました。装置の作製ではわからないことも多かったため「とりあえず作ってみよう」と試行錯誤し、研究途中では進捗状況を確認して何度もメンバーで話し合いながら計画を修正して研究活動を進めていきました。この経験からPDCAサイクルの重要性について改めて理解を深める事ができました。



i コンピテンシーで特に高めることができたと思うのは「I.情報分析活用力」です。初めて使う機器や農業の知識などについて情報収集をしっかりと行うことが必要だったからです。

興陽高校の要望に沿えるものを作り上げるためには、様々なシステムを活用して事前実験を行う必要がありました。情報の分析を行い、装置を完成させていく中で情報分析活用力が育まれたと思います。

今回の興陽高校との研究を通してとても貴重な体験をすることができました。連携をすることにより、実際に需要を調査し、その調査結果を反映させながら研究を進める過程を経験することができました。この経験は、今後の社会貢献にも生かせると思います。情報化社会において、人々に寄り添いながら進める研究や事業の展開は、より重要となっていくと思います。今後もこのような様々な分野を融合した複合的な研究に積極的に参加していきたいと思えます。